



EBENEZER
OPERATION EXODUS

Issue 4 / 2016

第28号

時を悟る

アリア25周年記念1991-2016

イッサカル族から、時を悟り、イスラエルが何をなすべきかを知っている彼らのかしら二百人。彼らの同胞はみな、彼らの命令に従った。
第1 歴代誌12章32節

エベネゼル緊急基金・ユダヤ人の帰還を助けるクリスチャンの団体



時を悟る

国際



アラン・フィールド
ALAN FIELD
国際コーディネーター

「イッサカル族から、時を悟り、イスラエルが何をなすべきかを知っている彼らのかしら二百人。…」 歴代誌12:32

現在私達が生きている世界を深く悩ませている「時」を悟るためには、洞察と啓示と見分ける目が必要です。

これは、ただとりなしの祈りを通して、また主に知恵と啓示の御霊を求めることを通して与えられるものです。

ヘブライ語において、「悟る」ということは、「洞察力を持つ」という意味です。ダニエル書2:21-23にはこう書いてあります。

「神は季節と時を変え、王を廃し、王を立て、知者には知恵を、理性のある者には知識を授けられる。神は、深くて測り知れないことも、隠されていることもあられし、暗黒にあるものを知り、ご自身に光を宿す。私の先祖の神。私はあなたに感謝し、あなたを賛美します。あなたは私に知恵と力とを賜い、今、私たちがあなたにこいねがったことを私に知らせ、王のことを私たちに知らせてくださいました。」

世界の国々の忠実な支援者の皆さん、このようなわけで、皆さんの祈りが本当に大切です。国際理事会とエベネゼルのリーダーが、今後の働きについて皆さんに分ち合っていきたいと思っています。

私達が直面しているチャレンジは大きなものです。そしてエベネゼルはまず何よりもとりなしの働きのための召しを受けています。ということは、私達は、何かをする前にまず祈って聖霊の導きを求めるということです。しかし、神様はまた私達に、預言的な任務を果たすように求めておられます。その働きとは、世界中にいるユダヤ人が、聖書のみことばの通りにイスラエルに帰還するのを支援する働きです。神の御霊によって、また皆さんの忠実な献身と支援によって、私達は、この働きを25年以上に渡って続けてきたのです。

2016年の前半の9か月の間に、私は広範囲に支部やチームを訪れました。ニューヨーク、モスクワ、エルサレム、キエフ、ヨーロッパなどへ行きました。1月に行われたエベネゼル25周年記念大会において預言的に与え

られたことばは、「時は短い。しなければならないことはたくさんある。」でした。このことばは、国々での働きの報告を聞いたり、直接見たりした時に、私の中で強く迫ってきました。このことばは、次に語られた「**48か月の間に、世界は全く異なった場所となる。**」という警告のことばとともに与えられました。

エベネゼルチームにとって、東においても西においても、今後大きなチャレンジが与えられるでしょう。歴史は、主要なアリヤーの波が危機の時代に起こりその前には献身的なとりなしの祈りがささげられていた、ということ語っています。

私達は、ロシア中において、大規模な働きと人道的支援の働きを継続しています。エベネゼルチームは、時には非常に困難で敵意に満ちた地域において、ユダヤ人居住区を訪れて、ユダヤ人家族がアリヤーするための驚くべき支援の働きを行っています。しかしながら、状況は急速に変化しており、エベネゼルチームが働きをするのが益々難しくなっています。7月には、プーチン大統領が二つの新しい法律に署名し成立させました。このことを通して、テロリズムに対する方策を講じ、国家の安全を守るための21の法律に変更がもたらされる可能性があります。これらの変更の中には、「良心の自由の制限」を含んでいます。これは、「宣教師」による活動や、宗教団体の働きや、海外の宗教団体の活動などにも制限を加えるものとなります。つまり、エベネゼルのチーム



写真上: © PA Photos Sword
Magazine in Paris. 協力

右: パリの落書き



が自由に働きを行うことができなくなる可能性があるのです。

クリミアとウクライナの分離主義者間の緊張感が、特にドネツク地区で再び強まってきています。ウクライナのエベネゼルディレクターのパディムは、次のように報告しています。「ほぼ毎日のように、兵士が死傷しています。」この地区は、エベネゼルチームがユダヤ人家族を訪れ、彼らのアリヤーの支援をしている場所です。どうか彼らの安全が守られるようお祈りください。

モルドバは、ロシア包囲(ドニエストル)のある場所です。モルドバとバルト地区は、地域的な対立が激化している場所です。エベネゼルチームはこの地域でも支援を続けています。昨年9月には、エベネゼルの、私達が長年に渡って協力してきた、オランダに本部がある「Christians for Israel International」という団体とともに、この地から二つの飛行機でのアリヤー便の支援をしました。

2016年前半においては、世界中のアリヤーの58.8%を旧ソ連からのアリヤーが占めています。

アメリカにおいては、ニューヨークのブルックリンにある新しい支部が活動しています。この働きは、エルサレムの支部から移動したシャリー・ローレンソンが導いています。ユダヤ機関とともに協力して共同主催したブルックリンのシーブシェッドベイでのイスラエルとアリヤーのアウトリーチイベントを通して、エベネゼルとブルックリンにおける新しいエベネゼル支部の認知度が上がりました。

ラテンアメリカにおいても私達は積極的にアリヤーを支援しています。アルゼンチンのブエノスアイレスのエベネゼル支部も活動中です。現在、皆さんの祈りを必要としているプロジェクトは、チリに新しい支部を開設することです。再び、反ユダヤの攻撃が激化しており、チリにあるユダヤ人居住区の代表者であるガブリエル・ザリアスニクに、警察の保護が与えられたところでした。彼は、「私は43歳ですが、このようなことは生まれて今まで一度も体験したことがありません。」と述べていました。また、

「チリ各地において、8回に渡って反ユダヤ行動が起こっています。」と語っていました。

エベネゼルの任務は、ただユダヤ人がイスラエルへ帰還することを支援するだけでなく、神のみことばを宣言することを通して、国々の

教会に啓示と理解をもたらすという任務も同様に重要なことなのです。教会の多くは、ユダヤ人の帰還を支援する召しについての啓示を受けていません。ですから私達は、啓示と知恵の御霊が注がれるように祈らなければならないのです。

愛する友の皆さん、私達は、皆さんなしにはアリヤーに仕えることはできないのです。世界中でますます多くのクリスチャンがこのことを理解して、アリヤーの働きを実際、経済的に支援し、また最も重要なこととして、祈りととりなしをもって支援していくために聖霊によって整えられていることを見るのは、大きな喜びです。



用語解説

アリヤー(Aliyah):
ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。

ユダヤ機関(Jewish Agency):
1929年C.ワイズマンによって創設され、エルサレムに本部をもつユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム(Olim):
イスラエルに帰還するユダヤ人

写真:イスラエルへ向かう
飛行機を待つ少年



モルドバ



パベル
PAVEL
モルドバリダー

上: エベニアとイリヤが
イスラエルへ発つところ

下: ガリーナとその家族

右下: ディミトリとエレナ
と子供たちのダニエルと
アンジェリーナ

アリヤーの収穫

昨年8月に、モルドバの首都チシナウから4つのアリヤー便で、23人のユダヤ人のイスラエル帰還を支援することができたことを、主に感謝しています。帰還したユダヤ人の中には、5人の若者がおり、彼らはイスラエルの学習プログラムで学ぶことになっています。帰還するための移動やその他の支援をすることができました。

帰還した4つのユダヤ人家族の話です。

私達が初めてディミトリとエレナと彼らの二人の子供に出会ったのは、2013年の冬靴プロジェクトでした。彼らはまずロシアに引っ越しをする決心をしました。そしてそこで良い仕事も見つけ生活も落ち着きました。しかし、経済危機により状況が急変しました。その時に、彼らは以前私達が彼らにアリヤーについて話していたことを思い出し、モルドバに戻りました。そこで彼らの書類の準備やビザの申請などの支援をしました。彼らは非常に感謝していました。

リリアの夫のオレグは、イスラエルへの帰還を拒否し、自分の家族にも帰還させようとはしませんでした。私達は祈りの支援者とともに、このことについて主を求めました。すると突破が起こり、オレグは妻と子供たちが帰還するのを

許したのです。彼はモルドバに残ることを決めましたが、家族を空港で見送った後に彼の心はさらに開かれ、彼もまた家族と合流することを決めて、今は書類の準備をしています。

ガリーナは、自分の二人の子供を連れてイスラエルへ帰還するためには、励ましが必要でした。以前よりアリヤーについて考えており、私達の訪問にも感謝してはいましたが、申請の手続きが彼女には非常に大変なものに思えたのです。しかし、彼女の書類の準備やチシナウのイスラエル領事官への何度かの訪問のためにエベネゼルチームが支援することができ、彼女は家族とともに8月のアリヤー便に乗ってイスラエル帰還を果たすことができました。

シングルマザーであるエベニアは、息子のイリヤとともに、アリヤーを決めてからのエベネゼルの支援に心から感謝していました。彼女の姉はすでにイスラエルに帰還していたため、エベニアは、自分は病気の母親を看病するためにもここに残らなければならないと感じていました。その後悲しいことに母親は亡くなり、その直後に父親も亡くなりました。そういうわけで、エベニアはイスラエルへ帰還する時が来たと決心したのです。エベネゼルチームは、彼女と息子のイリヤ(と彼らの猫も)をアリヤー便のために空港へ連れて行くことができ、感謝でした。



ジュリアを助ける

私達はジュリアがアルマティにあるイスラエル領事との面接に行くための交通費を支援しました。彼女の必要を知ってから、主が彼女を強めすべての書類の準備を助けてくださるよう祈りました。



彼女は31歳のシングルマザーで、ブラディスラフという小さな息子がいます。彼は元気いっぱいの子供で、ジュリアは彼の世話に追われていました。それで、彼女の母親が孫の世話を手伝っていたのでした。

私達は、彼女がアリヤーする決心をしたと聞いて喜びました。そしてそのための必要な支援をすることができました。ジュリアはその後1年の間にすべての書類の準備を整え、無事アリヤーすることができました。

イスラエルに到着すると、彼らはアシュドテに住み始めました。そこには親戚も友人もいませんでしたが、主が彼らをその地で助けてくださることを私達は信じています。感謝なことに、ジュリアはヘブライ語を学んで良い仕事に就いて、息子のために良い教育を与える決意をしています。主が彼女のすべての必要を満たしてくださいように。

カザフスタン



ザンゾル
ZHANSOLU
カザフスタンリーダー

写真:ジュリアの新生活

安全に向かって飛び立つ

私達が東ウクライナのドネツク地方にあるマケーフカを訪れた時、セルゲイとナターシャ、そして二人の子供、十代のソニアと小さなディビッドに会いました。彼らは急に暴動が始まった自分の町の状態に非常に困惑し、心配していました。ドネツク地方では、かなりひどい内戦が起こっており、そのために彼らは、より安全に暮らすことができるように、子供を連れてイスラエルへ帰還する決心をしたのです。

彼らの親戚の何人かがイスラエルに住んで

おり、そのことが彼らの決断を助けました。彼らは、自分の家族がイスラエルにおいてより良い将来を見ることができるということを確信しました。

私達は彼らのイスラエル領事館への申請の支援をしました。また、彼らがアリヤー便に乗るためにドネプロペトロフスク空港へ彼らを送りました。彼らはとても感謝していました。そして私達に、神様が私達に召している「立派な」(彼らの言葉です)働きをぜひ続けてほしい、と言っていました。

ウクライナ



ヤンヤ
YANYA
ウクライナチーム



セルゲイ、ナターシャ、ディビッド、ソニアが、出発を待っているところ



若い先駆者たち

ウクライナ



バディム&ナタリア・ロボチー
VADIM & NATALIA RABOCHIY
東ヨーロッパ地区ディレクター

9月1日に116名の若いユダヤ人が、ウクライナのキエフから先祖の地イスラエルへ留学のために飛び立ちました。その便には、他に38人のユダヤ人が乗っており、彼らはイスラエルへ帰還するための視察のためにイスラエルへ向かっていました。

エベネゼルは、他の2つのクリスチャンとユダヤ人の団体とともに、ナーレとセラプログラムを通して、散らされた地からイスラエルへ留学するための飛行機の便を準備し提供してきました。

私自身も、14、15歳の子供の父親として、彼らが親や親戚や友達からも離れて、見知らぬ土地での一歩を踏み出す準備をする気持ちとはどのようなものか理解し始めました。ですから、私達は彼らに、「イスラエルの全能なる方が彼らを御手のうちに守ってください。なぜなら、ユダヤ人は神の瞳のような存在だから。」と伝え、励ましました。

妻のナタリアとともに、他のスポンサーとともに、彼らに同行してテル・アビブ空港まで行くことができたことは私達にとって特権でした。彼らと話すと、彼らの多くが先駆者であり、家族の中で初めてアリヤーの一歩を踏み出す者であることを知りました。これから何年かの間に、彼らの親や親戚の多くがこの若者たちの後に続いてイスラエルへ行き、そこに住むことになるでしょう。

14歳のサーシャは、もし彼がイスラエルを気に入ったら、彼の両親や弟も後にイスラエルに行くでしょう、と言っていました。もう一人のダニエル(15歳)という学生は、イスラエルで外科医になりたいと言っていました。また、15歳のイラは、はじめは彼女の母親は、自分の娘が自分の故郷から遠く離れたところに住むようになることに葛藤を覚えていたと言っていました。しかしある日、イラの母親は、不思議とイスラエルに親近感を覚えるようになったそうです。

同じ便に、アリヤーする5人家族が乗っていました。大家族の一部ですが、2年前からエベネゼルの支援によってイスラエルへ帰還し始めたのです。その時以来、この大家族のうち26人が帰還しています！

吸収省の大臣であるソファ・ランデルは、学生とオリムを暖かくイスラエルへ歓迎しました。ユダヤ機関の議長であるナタン・シャランスキーは、クリスチャンがこのような飛行機の便をスポンサーすることの重要性について語り、私達クリスチャンが彼らの真の友であると説明していました。

この若い学生達のためにお祈りください。
また、彼らの両親や親戚がイスラエルへ帰還できるようにもお祈りください。

下:十代の学生達がイスラエル留学に向かう
右:家族でのアリヤー



ダリアの苦渋の決断

砲弾がアパートの隣の建物に当たった時、ダリアはその爆発の衝撃を受けました。それは彼女の建物にも大きな損傷をもたらし、窓ガラスは破壊されました。その時、彼女は今までも何度かしてきたように、飛び散る爆発物や爆音の騒音から年老いた母親を守るために、彼女を毛布で覆いました。

ダリアは、東ウクライナへの旅の途中、ドネツクにあるヘセドユダヤ人センターで私達が彼女に会った時に、体験してきた恐怖を語ってくれました。ヤンヤが、ある時ユダヤ人達に、アリヤーする人のためにエベネゼルからの支援を受けられることができるという話をしたのですが、そこにダリアもいました。その時には、一人ひとりに食料品の支援が与えられ、私達の働きについてのパンフレットも配られました。

ダリアの子供達はイスラエルに住んでいましたが、ダリアはドネツクに留まることを決めました。それは、自分の母親の世話をするためでした。内戦が始まってからは、真剣にアリヤーすることを考えましたが、彼女の母親はすでに96歳になっており、非常に弱っていたので

す。ダリアは、母親にはこのような急激な変化とイスラエルへの飛行機の旅にも耐えられないのではないか、と本当に心配していました。

時には、爆撃があまりにも激しくなり、ダリアは母親を連れて学校の近くにある地下の防空壕へ隠れました。子供達から早くそこを出るべきだと何度も言われながらも、ダリアは献身的な母親への思いによってアリヤーを決心しかねていました。

その後、2015年9月にダリアの母親はこの世を去りました。ダリアの子供達は、もう彼女をイスラエル帰還からとどめるものはないと伝えました。ダリアは、昨年のはじめに、ヤンヤと私とドネツクで面会をし、できるだけ早くアリヤーしたいという願いがあると私達に告げました。それで、早速私達は彼女のすべての書類手続きの支援をし、昨年7月にテル・アビブ空港へと彼女を送り届けることができました。彼女は大喜びでした。そして、私達の支援のすべてに本当に感謝していました。

ウクライナ



タティアナ
TATIANA
ウクライナ地区代表



やっとイスラエルへ向かうダリア



夢が叶う

アメリカ



シャーリー・ローレンソン
SHIRLEY LAWRENSON
ニューヨーク市
地区ディレクター

写真:新生活へ向かう旅

昨年8月30日に夢が叶う時が来ました。17人の若いユダヤ人がジョン・エフ・ケネディ空港からイスラエルへ飛び立ったのです。彼らはヘブライ語を学び、自分の祖先の地について発見し、国際的に認められている学位を取得するためにイスラエルへ向かいました。エベネゼルUSA支部が彼らの財政支援をすることができたことは、特権です。

彼らは、何か月もの準備、計画、面接や試験を乗り越えて遂にテル・アビブに向かう飛行機に乗るため興奮していました。しかし彼らはまた自分の両親、兄弟、友人に別れを告げなければならない悲しみも感じていました。

外国での留学や新しい言語を学ぶことは勇気のいることです。このことをこの17人がまさにしようとしています。一人の青年は、兄にしがみつき離れようとしませんでした。しかし兄はやさしく弟の耳に語りかけ、入国審査のゲートへと見送りました。



彼らの人生における重要なこの旅が祝福されるようぜひお祈りください。

アメリカ

USAアリヤー二千人達成



キャシー・アーディノ
CATHY ARDINO
USAアリヤーディレクター

去年は前半の8か月の間に、467人がアメリカからアリヤーするのを支援しました。7月には、私達がアメリカでの働きを初めてから2000人目の方がイスラエルに移住者となりました。

エベネゼルが最近約束の地への帰還を支援した方の中には、トバとシュメイとその赤ちゃんモシェがいます。「私達は感謝を言葉で表すことができないほどです。アリヤーすることは私達の昔からの夢でした。それを皆さんが可能にしてくれたのです。」



バリー、チャナ、とその子供達も私達の経済的その他の支援に感謝して次のように言っていました。「イスラエルはユダヤ人の故郷です。私達はそこに行くことができ本当にうれしいです。とてもお金のかかることです。皆さんのサポートに本当に助けられました。」

皆さんの祈りと支援がこれを可能にしてくれたのです。」
トバ・シュメイと赤ちゃんのモシェ

どうか、アリヤーした全てのユダヤ人が故郷の地の生活に適応し順応することができるようにお祈りください。



アリヤーの働きが前進する

ドイツからのアリヤーの働きを促進するあらたなる重要な一歩を踏み出しました。9月初めにベルリンとフランクフルトからオリムが飛立つのを支援したのです。

ドイツエベネゼルチームは、ドイツの二つの空港で歓迎のテーブルを用意し、約束の地での生活を始める人々に、コーヒーやお菓子や果物などを提供しました。ドイツのチームの何人かは、フランクフルトからイスラエルに飛行機で同行しました。

ドイツ



またスタットガルトのチームは、イスラエルに持って行く家具の荷造りや家の掃除などの支援をしました。その後、アンドレアとジェルダが荷物をアントウェルプへ運び、そこからイスラエルへ送りました。



ヨハネス・バルテル
JOHANNES BARTHEL
ドイツコーディネーター

9月中旬に私達は、ベルリン支部を開設しました。一時的に、ケレン・ヘイソドユダヤ人協会の事務所の一部を借りています。今ユダヤ機関と共同の事務所を探しているところです。私達は、アリヤーを希望している人々が最善の支援を受けることができるようにするために、ユダヤ人関係の団体と協力することを期待しています。

写真は約束の地に向かう人々を祝福しているところ

前進し続ける

私達は自分の目ではっきりと、神様がユダヤ人を国々(イザヤ書43:5-6)からイスラエルへと帰還させておられるのを見ることができます。それだけではなく、現在ヨーロッパと世界中で、反ユダヤ的攻撃が増加していることは明かです。

エレミヤ書16章16節において、神様は、多くの漁夫をやって、彼らをすなだらせる。その後、多くの狩人をやって、彼らをかり出させる、と宣言しています。私達は、活動しているいくつかの場所で、このことが起こっているのを体験しています。私達は代価を支払い、神の選ばれた者たちとともに、神のみことばの上に堅く立ち続けるようにチャレンジを受けています。中央ヨーロッパにおいては、120万人以上のユダヤ人が住んでいますが、それらの国々において、エベネゼルチームは日夜ユダヤ人がアリヤーする支援を継続しています。

私達自身、ユダヤ人がアリヤーすることを支援するという神からの任務に直面しています。エベネゼルの25周年記念大会におい

て、スティーブ・ライトルは私達にこう問いかけました。

「皆さんは、イスラエルのために立ち、祈り、そしてユダヤ人のために自分の命を捧げる用意はありますか？」



ウルス・カエスマン
URS KAESMANN
開発ディレクター

西ヨーロッパ

賛美し、告げ知らせ、祈りましょう！

祈り



フィオナ・スタッケン
FIONA STUCKEN
アジア太平洋祈りの
コーディネーター

…「ヤコブのために喜び歌え。国々のかしらのために叫べ。告げ知らせ、賛美して、言え。『主よ。あなたの民を救ってください。イスラエルの残りの者を。』 エレミヤ3 1：7

セラ…休めよ…聖霊の靈感によって、2500年以上も前にユダヤ人の預言者が21世紀において、主の民からの効果的なとりなしのための型を含む言葉を書いているとは、何と驚くべきことではないでしょうか。

賛美し…告げ知らせ…祈れ… これは、私達が主の前に出て祈る時に、どう始めるべきかについて伝えています。

賛美： 賛美を通して、私達は主の臨在の中に入ることができます。そして、自分の思いをわきへよける助けとなります。そして、神の思いを受け取る心が整えられるのです。

告げ知らせる：私達は、神のことばを声を上げて告げ知らせます。神のことばを宣言することによって、神が表現されたみこころの十分な権威が、天の領域に解放されます。悪魔は私達と争おうとしますが、悪魔は生ける神のみことばと言い争うことはできないのです！

祈り：私達は、神様が私達の心に与えてくださったイスラエルの回復と救いのために、また真理の啓示が教会に与えられるように祈りを主にささげます。

私達がエレミヤの祈りの型を受け入れるならば、主が必ず祈りに答えてくださることを知ることができます。次のことばがまさに語っています。「見よ。わたしは彼らを北の国から連れ出し、…」

ですから、さあ行きましょう！

賛美：「まことに主は大いなる方、大いに賛美されるべき方。すべての神々にまさって恐れられる方だ。…尊厳と威光は御前にあり、力と光栄は主の聖所にある。」(詩編96：4 & 6)

告げ知らせる：「諸国の民よ。主のことばを聞け。遠くの島々に告げ知らせて言え。『イスラエルを散らした者がこれを集め、牧者が群れを飼うように、これを守る。』と」(エレミヤ31：10)

祈り

- あなたの国の中のユダヤ人が、主の慈しみによって早くアリヤーすることができますように。
- 主が、すべての国々からイスラエルの民を集めるという約束をしてくださったことを、主に思い起こしていただきましょう。
- あなたの国の教会が、ユダヤ人を愛し、ユダヤ人のために祈る責任があるということに目覚めるようお祈りしましょう。
- 反ユダヤ主義の悪が抑制されるように。



インパクトをもたらす

「神は、ひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地の全面に住ませ、それぞれに決められた時代と、その住まいの境界とをお定めになりました。」使徒の働き17:26

神様はご自身の主権によって、世界のそれぞれの国に住む土地を与え、また神様の恵みによって、国々にあってキリストのからだの一部としてくださいました。神様は、イスラエルのためにまた国々のために、ご自身の素晴らしいみこころを成し遂げるために私達をこの地上で用いてくださることができます。

エベネゼルヤングアダルトの働きは、パラグアイにおいて前進しています。コーディネーターのホセ・ガブリエル・マルティネスはこのグループのリーダーとして、「イスラエルの選び、無条件の契約」というタイトルで、いろいろな教会において聖会を行っています。その結果、南米から、主に触れられた人々が、アリヤーの働きを支援するための献金がささげられました。

アルゼンチンのコーディネーターのラウル・ルイジエは、主の助けによって、コルドバ州のロス・ココスにおいて、昨年の8月に第二回のエベネゼル全国大会を3日間に渡って行うことができました。参加者の中には、ブラジル、パラグアイ、メキシコ、アルゼンチンなどから参加した人たちもあり、イスラエルの回復や土地やユダヤ人の帰還のためのとりなしについてなどのテーマで教えをともに受けることができました。

参加者の一人が、ユダヤ人がアリヤーするための手続きの助けをすることができ、すばらしい祝福となりました。また、大会の最終日には、参加者がユダヤ人家族を訪れ、中にはアリヤーのメッセージにとっても心の開かれた家族もいました。

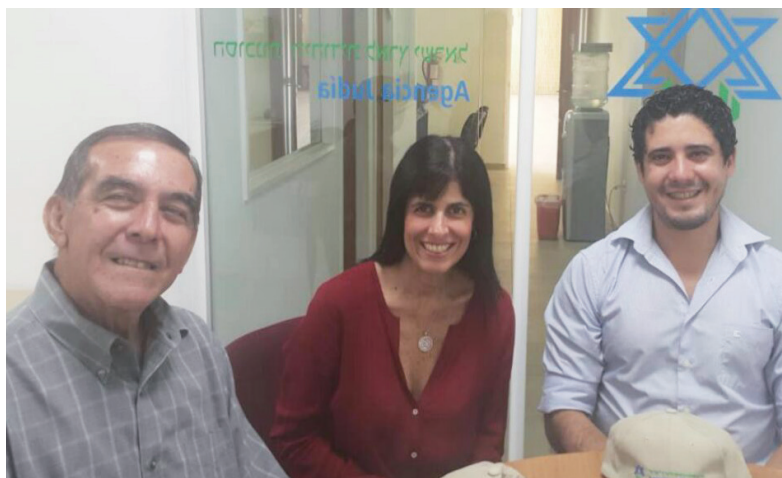
ラテンアメリカにおいて、私達は、主の民に対する御計画の啓示を分かち合ったり、祈りや献金を通して、さらに出エジプト作戦を支援し、エベネゼルヤングアダルトのインパクトをもたらしていきたいと願っています。南米には祈りのグループが立ち上げられる大きな必要があります。ですから、どうかこの必要のために主にお祈りください。

ヤングアダルト



ダニエラ・カスティージョ
DANIELA CASTILLO
メキシコヤングアダルト

写真：
ベネズエラのカラカスにある
ユダヤ機関に献金を渡す



2017年7月24日—8月7日

18歳以上 - 35歳

ツアー代金

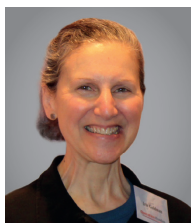


SCAN QR

(*excl. flights & some lunches. Price subject)

「もう再び、しばむことはない。」

イスラエル



アイリス ゴールドマン
IRIS GOLDMAN
エルサレム支部

写真:アイリスとツイリ



「彼らは来て、シオンの丘で喜び歌い、穀物と新しいぶどう酒とオリーブ油と、羊の子、牛の子とに対する主の恵みに喜び輝く。彼らのたましいは潤った園のようになり、もう再び、しばむことはない。」エレミヤ31:12

私達は、何年か前にジョージアからアリヤーしたツイリに出会いました。彼女と夫のバジャは、忠実に故郷に帰還し、年金生活者となりました。彼はがん治療を受けており、ツイリはジョージアでは医者でしたが、パーキンソン病と診断されました。

しかし彼らは、イスラエルにおいて優れた医療による治療を受けており、私達は彼らを慰め励ますことができました。

彼らに、食料物資や毛布などの実用的な支援や、また必要な生活の費用を援助することができました。ツイリは非常に感謝しており、時々私達のところに、自分で焼いたケーキやお菓子などを持ってきてくれます。

時には、ただツイリを抱きしめて、涙する彼女の話に耳を傾けるだけのこともありました。そしてもちろんこの愛すべきご夫婦のためにお祈りしました。するとある日、彼女は私達のオフィスに立ち寄り、満面の笑みを浮かべて、「バジャの容態が良くなってきた。」という良い知らせを伝えてくれました。私達はこのことを聞いて本当にうれしかったです。

神様が祈りを聞いてくださっているのです。主に感謝と賛美をささげます！

私達が、エルサレム支部の事務所を引っ越した時、すぐにツイリは優しい笑顔で立ち寄ってくれました。他のオリム達と同様に、彼女は、この場所が明るく楽しい場所だと気づいているのです。彼女はこう宣言していました。「ここには光があるのよ！」

どうか、主の光、イスラエルの神がバジャとツイリの人生に明るく輝いてくださるようにお祈りください。彼らが、祖先の土地において、「もう再びしばむことがない」ように、そして神を知り、神の祝福と豊かさ、完全な癒しと息子の帰還も見ることができるよう、十分に神の慈しみを体験することができるよう、お祈りくださるようお願いいたします。

Operation Exodus

A ministry of Ebenezer Emergency Fund International



Ebenezer Operation Exodus International & UK Office
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org



Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster
NY 14086
Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org



エベネゼル緊急基金日本支部
〒062-8691 豊平郵便局私書箱37号
Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)
office@ebenezerjapan.org
http://ebenezerjapan.org/
郵便振替 (名称) エベネゼル緊急基金
(番号) 02710-0-55842

Operation Exodus (出エジプト作戦) はエベネゼル緊急基金の実践的な働き の名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく1991年に3人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた25カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。